

令和元年度 第1回いなべ在宅医療・介護連携研究会を開催しました！

今年度からいなべ地域では、「連携」から「協働」へと目指すところを進化させ、階層別の連携コーディネートを取り入れた重層的な事業の推進をめざします。

そこで、今年度最初の研究会は、全国でいち早く厚生労働省モデル事業「在宅医療連携拠点事業」に取り組み、地域医療体制の充実と医療・保健・福祉・介護の連携・協働を推進している岩手県釜石市の「在宅医療連携拠点チームかまいし」の実践報告を受けました。

“チームかまいし”の階層別連携コーディネーター(一次連携、二次連携、三次連携の三層構造)を学び、実践報告後の意見交換では、同一職種毎のグループに分かれ、自分たちの団体でできることなどについて語り合いました。

司会 渡部委員(とまと歯科)
太田委員(パークレジデンス)



1. 先進地実践報告

岩手県釜石市『在宅医療連携拠点“チームかまいし”の取り組みについて
報告者:「チームかまいし」連携コーディネーター
地域包括ケア推進本部事務局 副主幹 小田島史恵 氏



2. 意見交換会

『チームかまいし』の実践報告を受けて、自分たちの団体でできることなどについて語り合ってみましょう。

- 日 時 令和元年7月19日(金)19:30~21:15
- 場 所 員弁コミュニティプラザ
- 参加者 147名



実践報告の感想

- ☆専門職同士が連携して結果を出している取り組みを聞き、この地域でももっと協働、連携ができるという希望が持てました。
- ☆一次連携、二次連携という形はとても分かりやすかったです。この地域でもして欲しいと思いました。
- ☆改めて同職種間の連携の大事さに気づいた。
- ☆各職種に話しやすい人をつくるということに感銘を受けました。
- ☆チームづくりへの誰もが持つ不安、期待を共有することが大切と確認できました。

意見交換会の内容

●医師・看護師●

- ・各職種でまず問題点を出し、それぞれがアセスメントし、解決していかなければならない。
- ・病院職員は地域を知らない。知る機会があればもっと良いと思う。

●薬剤師●

- ・病院も含めて連携できると良い。
- ・薬業連携で病院薬剤師も含めて一回全員で集まってみたい。
- ・ケアマネとはぜひ二次連携したい。

●介護職員●

- ・意見交換できる場が欲しい。
- ・医療だけ、介護だけではいけない。他の分野の専門性を理解できるよう日頃からの関係性が必要。

●リハ職●

- ・薬剤師のことがよくわからない。薬剤師会と二次連携をお願いしたい。
- ・病院なので地域がわからない。職種間の共通の認識が取れていない。

●歯科医師・歯科衛生士●

- ・歯科で取り組めることを知ってもらえると良いと感じる。
- ・医科歯科在宅医療同行訪問研修なども地域で行えると良い。

●介護支援専門員●

- ・一次連携、二次連携の職種の課題のすり合わせをして欲しい。
- ・薬剤師会との連携をしたい。
- ・専門職で集まると課題共通が共鳴できる。

●MSW・PSW・社会福祉士●

- ・いろんな意見を出しあえる場が欲しい。
- ・連携を意識して働いていきたい。

●管理者・事務長・施設長●

- ・連携の図に介護職が蚊帳の外?になっているように思えた。
- ・管理者の集まる研修があっても良いのでは。

●管理栄養士・栄養士●

- ・三重県栄養士会に入っていない人とは交流がない。これを機会に集まりたい。

